

大牟田市立倉永小学校

1 本校のESDの特徴

倉永小学校区は、豊かな自然に恵まれ、福祉施設や歴史的な文化財が数多く存在している。地域のつながりが強く公民館活動も盛んである。他の地域に比べて三世代同居が多く、教育に関しても熱心である。

本校は「家庭や地域の人々とともに児童を育てる」を学校理念として、ESDを児童が家庭や地域とのつながりを深め、未来の日本社会や郷土を支える力を育む教育活動と捉えている。ESDの実践を通して、友達や地域の人々と協働して課題解決を図る力の育成を目標としている。

具体的には、総合的な学習の時間を柱として各教科と関連させて取り組み、主に「環境」や「防災」「地域文化財」に関わる学習を行っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 1年生「みんな なかよし」(環境)	生活科
(2) 2年生「わたしの町はっけん」(環境)	生活科
(3) 3年生「倉永っこ見守り隊」(安全)	総合的な学習の時間
「ふるさとウォッチング」(環境)	総合的な学習の時間
「ワクワクドキドキお話探偵団」(読書活動)	総合的な学習の時間
(4) 4年生「ゴミ減量大作戦」(環境)	総合的な学習の時間
「隈川探検隊」(環境)	総合的な学習の時間
「倉永給食探検隊」(食育)	総合的な学習の時間
(5) 5年生「災害に強いまちづくりパート1・パート2」(防災)	総合的な学習の時間
「倉永ふるさと再発見」(環境・福祉)	総合的な学習の時間
(6) 6年生「倉永スマイル」(福祉)	総合的な学習の時間
「未来に向かって」(キャリア)	総合的な学習の時間

3 特徴的な活動事例の紹介

【3年生「ふるさとウォッチング」(環境) 20時間】

(1) ねらい

- 校区の自然環境に関心を持ち、校区で見つけた野鳥について調べたり、日本野鳥の会の方と調べる活動を通して、自分達の校区のよさを感じ、地域を愛する心情を育てる。

(2) 学習の流れ

- ① 学校内を歩き、昆虫や植物、野鳥に気付き、倉永校区は自然が豊かであることを確認する。
- ② 校区に住む野鳥について調べる。
- ③ GTを招待して、各グループでまとめたことを発表する。

(3) 子ども達の様子

本校は、春には教室の横でウグイスがさえずり、夏にはツバメが校舎の壁で子育てをしている。そこで、日本野鳥の会の方をGTとしてお招きし、双眼鏡を使って、野鳥の観察を行った。また、学校近くの神社にも観察に行き、鳥の姿だけではなく、鳴き声に



野鳥の観察

興味を示すようになった子どももいた。

観察後は、見つけた鳥について、図書資料を使って名前やすみかについて調べ、校区の地図にまとめた。すみかについて調べるうちに、川の土手をコンクリートで固めることで、カワセミのすみかが奪われていることにも気付いた。倉永校区の自然を守るために、自分達にできることは、「森や林、川を汚さないこと」「木を植えて鳥達のすみかや食べ物を守ること」であるという思いを持つことができた。



GTとの観察会

【4年生「隈川探検隊」(環境20時間)】

(1) ねらい

- 川にすむ生き物や COD 検査による実験を通して、地域の川の環境について考え、川を大切にしていこうとする態度を育てる。

(2) 学習の流れ

- ①倉永校区の川は、ホタルが飛ぶほどきれいなことを地域の方から聞いたり、隈川を見に行ったりして学習課題をつかみ、計画を立てる。
- ②校区の川にいる生き物を採取したり、COD 検査で調べたりする。
- ③学んだことをまとめ、全校に向けて発信し、これからどのようにしていくのかをまとめる。

(3) 子ども達の様子

子ども達は、自分達の校区の川の環境について「どんな生き物が住んでいるのか」「川の環境は大丈夫なのか」という課題を持ち、調べる計画を立てた。川の調査は、水の汚れ具合によって目印となる生き物が決められていることを知り、川に住んでいる生き物を調査するとともに、薬品を使い、水質調査も行った。調査の結果、隈川は、きれいな川であること分かり、これからもこの環境を守っていかなければならないという思いを高めることができた。川を守るためには、山を大切にすること、地域の環境を大切にすることであることに気づき、自分達にできることは、「ゴミを捨てない」「台所でた油をそのまま流さない」ということであると、全校に向かって発信することができた。



川を調査する子ども達

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・地域教材を用いたことで、子どもの興味関心が大きく高まり、学習後も意欲が継続し、地域の環境に目を向けることができています。

○課題

- ・コロナ渦で校内での発信のみになってしまい、地域への発信ができなかった。今後は、子ども達の発表を映像に残し、コミュニティーセンター等で放映することも考えられる。
- ・中学校のESDの取り組みとのつながりも考え、系統的に学習できるように中学校と連携していく。
- ・地域や保護者との連携をさらに深めるカリキュラムの開発を進める。